

佐原の町並み

かわら版

第9号

平成8年12月

・小野川と佐原の会
・町並みを考える会
・佐原町並み保存会

信州の町並みを歩く

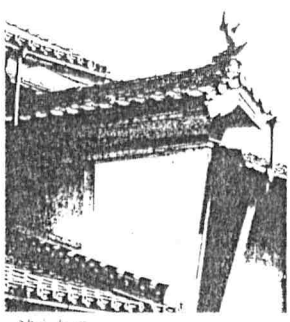
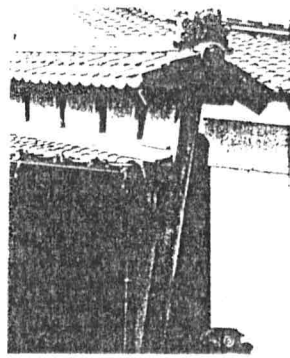
― 東部町海野宿・須坂市・小布施町を視察 ―

秋も深まった十一月初旬、「小野川と佐原の町並みを考える会」は、佐原市と共催して長野県の東部町と須坂市及び小布施町を研修視察した。地区内に住む住民を中心に二十一名が参加し、有意義な研修視察をすることができました。

佐原が重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建）の選定を受けるにあたり、先進地を見学にこうと企画し、町並み保存地区の多い長野県を選んだ。

東部町海野宿は、江戸と北陸を結ぶ北国街道にあり、十年前に重伝建地区に選定された。指定後、町並みは約2億円が投入されて修理され、廃虚だった宿場が時の流れを感じる落ち着いた町並みに変わった。防火のための防火壁に特徴を持つことから「うだつの町」として知られる。昔から山間地で

以上、特色のある地域を見てきましたが、まちづくりは、住民の方々のご協力とご了解のもとに進められるものです。今回の視察が、佐原のまちづくりの参考となれば幸いです。（保存委員長）



卯建（うだつ）

「また来たい街」を目指し

用水が街路の中央を流れ、江戸時代の旅籠造りから、明治以降の蚕室造りの建物、格子造りの町屋が整然と建ち並ぶ。見上げれば出桁造りや立派な卯建の数々。盛んだった頃を偲ぼせる海野宿。

然し、今は殆どの家の戸が締まり、人通りも少なく映画のセットでも見るような気がした。そこに住む人々とのふれ合いが旅を楽しくしてくる事を思う時、佐原も建物の修復のみで終わらせる事のないよう、生活する中で訪れた人達との人情味あふれる交わりをし、「また来たい街」にして行きたいと考えさせられた。（永澤幸子氏）

まちの活性化を図る

この度の視察で、町並みの建物を見せる町と、観光化して土産物を見るイメージの強かった町と両極端を見て感ずる事が多かった。重伝建十年の海野宿は、年々補修整備され重厚な家並みを呈していた。勤め人が多く日中は人の気配がなく、商店も二軒位であった。須坂は、重伝建ではないが土蔵造りで見応えがあった。

小布施は、車が着いた所で見学土産を買いたい地であった。この体験から佐原は、建物を保存しながら、そこに生活し、活きづく町として、佐原へ訪れた人が伝統的な建物を見ながら、住民と触れ合い、心なごむ雰囲気町並みを散策し、お帰りには佐原の特徴となる土産を持ち帰れる。

それによって町の活性化が図れる町並みの佐原でありたいと思つた。その為には、何を、どのようにするのかを、今迄以上に考えていかなければならないと強く感じた。（大高敏男氏）

